

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
M343A401		海外研修 (Overseas training)					国際力強化科目群		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択	2	4	医学部先進医療科学科	後期	他	日本語			単独								
担当教員	氏名 内田 智久 E-mail tomohisa@oita-u.ac.jp 内線 6193																
授業の概要	海外の大学、研究機関での研究活動に参加することにより、グローバル社会で生き抜く国際感覚や、専門知識の修得を目指す。実習先は、大学間協定、学部間協定を締結している主にタイの大学（マヒドン大学、タマサート大学、チェンマイ大学、コンケン大学、マハサラカム大学、チュラロンコン大学医学部、チュラロンコン大学理学部）において実習を行う。海外研修を通じ、コミュニケーション能力の向上、海外での研究力の向上、異文化での経験を通じ国際的視野を広げることを目的とする。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	海外でのコミュニケーション能力を向上する																
目標2	研修内容を理解し実行する																
目標3	異文化を学び国際的視野をひろげる																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									7	3							
授業の内容																	
1	海外研修に向けた事前学習をおこなう																
2	オリエンテーション(ガイダンス)にて海外研修の意義や目的を理解する																
3	3~9) 受け入れ先と連携して研修をおこなう																
4	海外研修先で必要な語学力や文化について学ぶ																
5	海外研修におけるコミュニケーション法について学ぶ																
6	海外での安全対策・危機管理について学ぶ																
7	海外実地研修先の研究内容について学ぶ																
8	海外実地研修先での研修内容について、受け入れ先と議論する																
9	海外実地研修先での具体的な研修目標を設定する																
10	研修中間発表(オンライン又は実地)にて現状報告と問題点を明らかにする																
11	11~13) 受け入れ先と連携して研修をおこなう																
12	問題点に対して、解決法を検討する																
13	受け入れ先と連携して研修をおこない、研修内容についてディスカッションする																
14	海外研修での体験や学習を報告書にまとめる																
15	成果発表会にて海外研修の成果を発表する																
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認															工 夫 そ の 他 の	研修先のメンバーと、研究内容についてディスカッションや発表をおこなう。
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	研修先の研究内容、地域特性、文化などについて予習する(15h)。															
	事後学修	研修を活かした将来についてのビジョンを描く(15h)。															
	想定時間合計	68															
教科書	教科書は指定しない																
参考書	参考書は指定しない																

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	実習先での研究について派遣先からのヒアリング	20%											
	研究実習の内容についての発表会	40%											
	成果報告書の作成	40%											
注意事項	「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」を熟読理解するとともに、緊急時に備え必ず外務省が実施している「たびレジ」「在留届」に登録し危機管理をおこなうこと。												
備考	自己負担40万円程度（渡航費、滞在費など）												
リンク													
	URL												